

The region agriculture leader of Wakayama Prefecture

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

和歌山の 農業士

2023
3
March

地域農業をリードする熱き農業者たち

第20号



はじめに

本誌『和歌山の農業士』は、和歌山県の地域農業を牽引するリーダーとして知事に認定された『農業士』が、互いの活動を共有するとともに、関係者の皆様や一般の方々へも、広く積極的に情報発信していくため作成しています。

農業士が長年の農業経験で培った経営観や、これからの農業にかける熱い想いを紹介する内容に加え、各地域で展開される農業改良普及活動や、農業士会としての取り組みなどを内容に盛り込んでいます。

農業に関係する皆様方には、是非、ご一読頂き、地域農業の実情や農業経営の現状等について、ご理解を深めて頂ければ幸いです。

C【目次】 CONTENTS

<巻頭言>

- 農業士仲間をずっと大切に（和歌山県農業士会連絡協議会 副会長 古田 好美）…………… 1
- 新規就農者の育成・確保には“支え”が必要です
（和歌山県農林水産部 農業生産局経営支援課 課長 川村 実）…………… 2

<私の農業>

農業士達がこれまで培った自身の経営や活動を紹介

- まずは挑戦、自分でやってみること（和歌山市 指導農業士 増田 恵一郎）…………… 3
- 桃農家と6次産業化（紀の川市 地域農業士 高平 昌英）…………… 5
- 「株式会社三ツ星ファーム」の取り組み～地域から必要とされ続ける農業を目指して～
（橋本市 地域農業士 尾上 文啓）…………… 7
- 省力化と高品質果実連年生産への取り組み（広川町 地域農業士 岩上 俊美）…………… 9
- 農業をするのであれば土との対話～環境にやさしい農業を目指して～
（御坊市 地域農業士 森口 裕隆）…………… 11
- 楽しく、やりがいがある農業経営を（田辺市 指導農業士 中道 昭人）…………… 13

<農業に懸ける想い>

農業への熱い思いや取り組みを紹介

- みかんで笑顔を（海南市 地域農業士 井辺 耕平）…………… 15
- 四季ごとの花（紀の川市 地域農業士 宮崎 幸也）…………… 16
- 柿の産地を次世代へ（橋本市 青年農業士 山名 和之）…………… 17
- 父親から引き継いだみかん作り（有田市 地域農業士 伊藤 貴啓）…………… 18
- 安定したミニトマト生産を目指して（印南町 地域農業士 廣野 宜伸）…………… 19
- 我が家の農地を守っていくために（上富田町 地域農業士 谷口 哲嗣）…………… 20

<県農林大学校生です>

農学部1年生の自己紹介&近況報告…………… 21

●園芸学科

谷岡 拓馬 中村 匠汰 西村 貫太 宮澤 孝幸

●アグリビジネス学科

池田 咲雪 北浦 佳将 寺井 飛翔

巻頭言

「農業士仲間をずっと大切に」

和歌山県農業士会連絡協議会

副会長 古田 好美



令和4年度の女性部会長が卒業されました後、ピンチヒッターとして副会長を仰せつかりました。令和5年を迎え、新型コロナウイルス感染症が蔓延して4年目となっても一向に感染者数が減りません。農業士会においても行事を控え気味です。

しかし、これまで活動の制限が求められ何もしない状況が続きますと経済的な面だけでなく、私たちの精神までもおかされてしまいかねません。そこで、農業士会女性部としてもリモートや感染対策を徹底して研修会が出来ないものかと模索しています。

さて、我が家では柿、みかんを中心に梅、スイカ、ぶどうなど年間を通して何かを収穫できるような経営をしています。園地は全て標高300m以上の中山間地であり、どの品目も早期出荷は無理です。そこで、逆の発想で他産地の出荷が終わった頃の端境期に向けての出荷になります。かつて私は栽培にはほとんど関わらず主人が育てた作物を少しでも高単価で販売できるように直売所などを回っていました。そこで消費者の方から「おいしかった」「お宅の名前のものしか買わない」などと声をかけて下さったときには本当に良かったと思えました。逆に時々おしかりの声もいただくのですが、それも大事なことで毎日の仕事の励みにしています。

その頃農業士会へのお誘いがあり、栽培のことは何もわからないので一度お断りしました。ところが、「これからの農業経営は栽培から販売まで含めてが

大切」と教えて下さる方があり、仲間に加えていただくことになりました。それから約15年の歳月が流れ、その間にプレミア和歌山認定や東京のアンテナショップ紀州館での販売など色々と勉強させていただきました。農業士会への参加によって似たような考えを持つ仲間にも出会えたことは心強く感じられます。仲間との交流により楽しいひとときを過ごせ、色々な情報を得ることが出来る事から、今では私の大事な宝となっています。私は今年度で農業士を卒業しますが、今後もこの繋がりをいつまでも続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、会員の皆さんと関係機関の方が手を携えて活躍されます事を祈念いたします。それとともに今回新知事となられた岸本知事に和歌山の農業発展のためご尽力を賜りますようお願いと期待を込め巻頭の言葉とさせていただきます。

巻頭言

新規就農者の育成・確保には “支え”が必要です

和歌山県農林水産部農業生産局経営支援課

課長 川村 実



農業士の皆様におかれましては、本県農業を支える担い手として、また地域農業を牽引するリーダーとして日々ご活躍いただき感謝申し上げます。

先日、岸本新知事から新たに認定を受けた60名を加えまして、現在、青年農業士120名、地域農業士534名、指導農業士136名、総勢790名となっています。日頃より安定した経営の実践を通じて地域農業の振興や次世代農業者の育成に向けた指導に取り組むとともに新技術や先進的経営事例、労働力確保などの地域課題に対する研修・交流会を開催するなどウィズコロナに対応した農業士会活動にも積極的に取り組んでいることにも敬意を表します。

さて本県農業の経営体数や高齢化を見ていきますと2020（R2）年農林業センサスの調査結果では主業経営体数（65歳未満の農業専従者がいる）が5,176経営体で5年間で約1,000経営体が減少しています。また65歳以上の農業従事者が64%（2015年は59%）を占め高齢化が進んでいます。

一方で新規就農者は令和3年度調査結果（令和4年5月調査）によると新規学卒者数が12名、Uターン就農者が57名、新規参入者が58名、農業法人等での雇用就農者が34名で合計161名となっています。ここ数年の傾向としては新規参入者が増加傾向にあり、特に県外出身者が増えつつあります。

そこで県としましては、令和2年度から就農希望者に対して振興品目で新規就農を目指すモデルプランを発信する地域を支援する「わかやま版新規就農者産地受入体制整備事業」を実施しており、現在、6つの地域で市町村やJA、生産者が協力し受入体制を整

えています。さらに受入地域を増やし新規就農者を増やしていくため、次年度から①就農希望者を本県に呼び込むため情報発信の強化、②遊休施設や倉庫など産地内の情報を集めて就農に向けたサポートの充実、③中古農機などのリユースを進め経営開始時の投資負担の軽減を図ることとしています。

これらの支援策に加えて新規就農者の定着を進めるポイントはやはり指導者の存在です。県外出身で新規就農された方にお話を伺ったところ、農林大学校での技術研修後就農し、その時に「師匠」と出会ったそうです。「師匠」からは栽培のアドバイスに加えて農地の紹介や中古機械のあっせんなどのお世話を受けただけでなく、「〇〇さん（師匠）ところのお弟子さん」として地域になじみ、ご本人の努力の甲斐もあってより条件の良い遊休農地や作業倉庫などの話が地域の方から声が掛かるようにまでになったとのことです。このように地域において信望が厚く顔が利き面倒見の良い優れた指導者の支えが新規就農者の定着にどれほど重要であるかはいうまでもありません。地域農業の振興を通じて信望を得ている農業士の方々にはこのような新規就農者の「師匠」役をご期待したいと思います。

本県農業の振興には担い手の育成・確保が最優先の課題となっており、県も新規就農者と併せ担い手となる農業者や組織の育成などの取組に全力で取り組んで参りますので、農業士の皆様のご協力及びご支援をお願いするとともに地域農業の活性化に向けた活動への取組にご尽力賜りますようお願い申し上げます。

まずは挑戦、 自分でやってみること

和歌山市 指導農業士
増田 恵一郎



1. はじめに

私は和歌山県農業大学校（現：和歌山県農林大学校）を卒業後、就農しました。就農当時は、父、母、祖母と私で経営していました。現在は、私と妻、息子夫婦で新ショウガを主にコマツナ、ホウレンソウ、ブロッコリー、水稻の複合経営を行っています。

2. 農業経営の特徴

現在、新ショウガを中心に、その裏作にホウレンソウ、コマツナ、ブロッコリーを栽培しています。水稻の栽培も行っています。最近では、新ショウガの種芋として、種ショウガの栽培にも取り組んでいます。これまでは、種ショウガは全量を県外産地から購入していましたが、リスク分散のため一部自家生産も始めました。

栽培の方針は、農産物は人の口に入る物なので、食味を重視したいと考えています。そのために、なるべく化成肥料を使わず、有機肥料を使うようにしています。

そして、新しい技術や品種など、気になるものは、まず、自分で試してみingことをモットーにやってきました。ホウレンソウの品種なども、この品種が良さらしいと聞いても、畑が違えば上手くいかないこともあります。自分で作って、納得のいく品種であれば、導入してきました。野菜は果樹と違って、方向転換もしやすいということもありますので、何で

農業経営の概況

○作付品目と面積	
新ショウガ（施設）	80a
ホウレンソウ	40a
コマツナ	10a
ブロッコリー	5a
水稻	50a
○労働力	
家族	4人
臨時雇用	1～2人

もチャレンジできます。

その中で、5年前からブロッコリーの栽培を始めました。私が農業経営をしている和歌山市の河西地域は、砂地地帯で、周辺は新ショウガの産地です。ブロッコリーは栽培する人は、ほとんどいません。しかし、チャレンジしてみると、ブロッコリーは比較的軽量で需要もあり、作業面でも自分1人で完結できることがわかりました。主力であるショウガは、やはり人手の確保が必要ですが、5aのブロッコリーは人手の確保まで必要なく自分のペースで作業できます。多くはできませんが、少しでも畑を活用できればと思っています。

3. 今後の経営方針

経営移譲のタイミングを検討しているところです。私自身は、20数年前に父を亡くし、経営を引き継ぎました。現在、30歳になる息子に5年後を目途に経営移譲を考えています。息子と話し合いながら、準備していきます。

4. 終わりに

日々の農作業の中で、事故無く無事に農業経営ができるようこれからも努めたいと思っています。

最近は、1ターン等で若い就農者が増えているように思えます。若い世代が農業を続けるためには、やはり生計が成り立つ農業経営が重要と考えています。良い物ができて当たり前で、農産物の価格は安いが経費はかかる時代です。このような時代ですが、安定した収入を得て、若い担い手に農業を続けてもらいたいと思っています。その一つの手段として、私は、人との繋がり、同じ農業者として横の繋がりは大切なことだと実感しています。ぜひ、若い担い手の方も人との繋がりを大切に活動してもらえたらと思います。



収穫した種ショウガ



ブロッコリーの栽培



種ショウガの栽培

桃農家と6次産業化

紀の川市 地域農業士

高平昌英



1. はじめに

私は大学卒業まで大阪で過ごし、保険会社に就職、その後ITベンチャー企業へ転職するも、心機一転37歳で新規就農し、当時の桃山町で桃の栽培を始めました。

すべてが初めての経験で、初年度は力の抜き具合など要領がつかめず、たった2反半の畑でしたが、悪戦苦闘しながらの1年目でした。



直売所の様子

農業経営の概況

○作付品目と面積	
桃（日川白鳳）	30a
（八幡白鳳）	10a
（白鳳）	2a
（清水白鳳）	5a
（なつっこ）	5a
（つきあかり）	5a
（川中島白桃）	25a
○労働力	
家族	2人
季節雇用	6人

2. 農業経営の方針と状況

自分でつくったものに自分で値段をつけて販売できるようにすることと、箱詰めなどの出荷作業を軽減して、農作業に集中する目的もあり、私を含め、農家出身でない3軒の桃農家が集まって、桃の直売所の運営を始めました。

また、収量を増やすために耕作面積の拡大に取り組むとともに、老木園の改植を行い、一時は耕作面積が1町6反となりました。その後、収量の安定とともに耕作面積も調整し、法人分と合わせて現在1町あまりの耕作を行っています。

就農5年目には収量の約5%発生する青果で取り扱えない桃を活用する方法と、農繁期に必要な人手を安定して確保する方法はないかを考えていたとこ

ろに、桃ビールをつくりたいので、桃の果汁を作っ
て欲しい旨の打診があったことから、これを機に農
産品加工を手掛けることにしました。

また、ほぼ同時期に前出の3軒の農家で（株）
八旗農園を立ち上げ、加工場の建設を行うとともに、
桃ピューレの製造を開始しました。

その結果、桃の収穫、加工所運営、直売所運営と
益々忙しくなってしまいましたが、現在は会社で社
員を雇用して、桃の栽培も行うようにしています。



人気の桃ピューレ



建設された加工所（上段：外観、下段：内部）

3. 今後の経営方針

今は、それぞれの農園を経営しながら、共同で（株）
八旗農園を運営しているスタイルですが、各個人農
園には後継者がいないので、今後は（株）八旗農園
に農園の所有権を移転・集約するようにし、社員で
農園事業、加工事業、直売事業を運営するようにし
たいと思っています。そのために人を育てることに
注力していきたいです。また、保持している加工所
や直売所の資産の有効活用（稼働期間の向上）を図
り、安定雇用と安定した売上の形成に努めたいと考
えています。

4. おわりに

私が新規就農したときは、まだその存在自体が珍
しかったのですが、今では新規就農希望者も多くい
ます。私は JA 紀の里のトレーニングファームでサ
ポーター農家として研修生を受け入れています。紀
の川市は日本有数のフルーツの産地。この先代から
の有形無形の財産を絶やすことなく、発展させて次
の世代へつなぐため、農業を支える人材の育成とそ
の人の豊かな生活実現にほんの少しでも貢献したい
と思います。

「株式会社三ツ星ファーム」の取り組み ～地域から必要とされ続ける農業を目指して～

橋本市 地域農業士

尾上文啓



1. はじめに

私は2002年に「尾上美装メンテナンス」を立ち上げ、ハウスクリーニングの事業に取り組みました。その後、2010年に「株式会社OBM」を設立し、ハウスクリーニングをはじめとする清掃業や各種事業に取り組みました。清掃事業の一環でナノバブルや水の勉強をすることになり、その中で水耕栽培と出会いました。それをきっかけとして2013年から水耕栽培の取り組みを開始し、2015年に「株式会社三ツ星ファーム」を設立しました。2018年には世界基準の安全性を追求するためにグローバルGAPの認証を取得しました。そして、水耕栽培をしていく中で、露地栽培の相談を受けることが多くなり、同年からホップの栽培を開始。2020年からは土壌改良資材である菌体資材の開発、大和当帰の栽培や白ゴマの栽培にも取り組んでいます。

2. 農業経営の方針と状況

安全・安心で体の中からキレイになる野菜を消費者に届けたい。その思いで水耕栽培の研究をしています。微生物を活用した水耕栽培の研究を続け、乳酸菌入りレタス「美人優菜」を開発しました。

これらの取り組みを進める中、2018年に高野町とご縁があり、休耕地の活用についてご相談いただきました。同じタイミングで県内でビールの原料となるホップを栽培できる農家を探していた醸造所

農業経営の概況

○作付品目と面積	
九度山町 水耕栽培	20a
グリーンリーフ	
ロメインレタス	
ルビーレタス	
グリーンオーク	
高野町 ホップ	10a
大和当帰	5a
橋本市 白ゴマ	20a
○労働力	
雇用（パート）	8人

さんと出会い、高野町富貴地区でホップの栽培を開始しました。休耕地の有効活用、雇用の創出と地域の活性化を目標に事業に取り組み、栽培したホップは「天空般若」というクラフトビールとして高野山内で販売しています。ホップやビールを通じて、少しでも多くの方に高野山を知っていただき、足を運んでいただければと考えています。

ホップの栽培を続けていく中で課題となったのは土づくりでした。水耕栽培で培った微生物の技術と周りの研究者の助力を得ながら、この課題に取り組みました。取り組む中で、単に土づくりをするのではなく、地域から出た未利用有機物を土に戻し、より良い作物がつかれないか研究した結果、土壌改良材である菌体資材が開発できました。2020年からはその菌体資材を用いて、富貴の特産品である薬用

作物「大和当帰」の連作栽培試験を実施し、3年間の試験栽培に成功しました。同年に橋本市で従来よりも化成肥料の窒素量を半分以上に抑えて栽培する「高野山麓精進野菜」の土づくりにも取り組み、「高野山麓菌体資材」を開発しました。橋本市の特産品「はたごんぼ」の連作障害対策にも取り組みを進め、成果を上げています。従来のように化成肥料に頼った農業ではなく、地域からでたものを有効活用した循環型農業で、より高付加価値のある作物を育て、地域も農家さんも元気になる取り組みをこれからも続けていきます。

3. 今後の経営方針

今後も微生物を活用した農業の研究を続けつつ、他分野でも活用できる技術がないか、常識にとられないユーモアなストーリーを描いて農業に役立てたいと考えています。国内だけでなく、海外にも目を向け、ビジネス展開をしていきます。

地域から必要とされ続ける農業を目指したい。そのため、作物の生産のみならず、加工そして販売までを行う6次産業化にもチャレンジしていきます。

4. 終わりに

世界では「バイオスティミュラント」(以下、BS)が農作物の生産性向上に貢献していることが伝えられ、ヨーロッパでは15年位前からBSの活用が普及しています。BSとは腐植酸やアミノ酸、ミネラル、微生物など様々なものを活用した資材で、作物の受けるストレスを軽減することで、作物本来の能力を発揮し、収量や品質に良好な影響を与えます。日本でもようやくBSが注目され始め、農薬や化成肥料に頼らない時代が来ました。農業はこれからもっと変化していきます。これからも最新の情報をキャッチして農業の発展に寄与します。



三ツ星ファーム「美人優菜」



ホップ栽培



クラフトビール「天空般若」



大和当帰栽培



菌体資材の開発



省力化と高品質果実連年生産への取り組み

広川町 地域農業士

岩上俊美



1. はじめに

私は25才で結婚し、主人が当時会社勤めをしていたこともあり、父、母に農作業を教えてもらいながら農業を始めました。

その後、私が32才の時、主人が会社を退職し、私、夫、父、母の4人体制での経営になりました。

当時も現在も経営面積は約580アールと面積はほとんど変わっておらず年を取るにつれ家族だけの労働に限界を感じ経営の効率化と農作業の省力化を進めました。

2. 農業経営の特徴

当時、ハウスミカンは40アール栽培していましたが、労力がかかる割には収益が上がらないことや老木化、燃料高騰などの理由で10アールに減らしました。

また、労力分散を理由に温州みかんから晩柑類の割合を徐々に増やしていきました。

作業面では薬剤散布用スプリンクラーの導入を年々進め、約5ヘクタールの傾斜地のほぼ全てに導入しました。

また、運搬用モノレールの延長や近年では軽トラックが入る園内道の整備を進めています。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	390a
極早生	30a
早生	130a
普通	230a
ハウスみかん	10a
晩柑	130a
水稲	50a
○労働力	
家族	4人
常時雇用	3人
臨時雇用	7人

3. 今後の経営方針

私の住む広川町山本は、「水はけが良く太陽の光が多く当たる急傾斜園が多い」、「海からの暖かな潮風で気候が温暖」などの好条件で、高品質な果実が生産できます。さらに、高品質な果実生産を目指し、極早生と中生の全園にマルチを敷いています、さらに毎年、バークミン堆肥を投入したり、強風による果実の傷の発生を防ぐ防風ネットを設置しています。

このように、高品質な果実の連年生産を目指しています。

4. おわりに

今後の課題は、老木化している 40 アールの甘夏の改植です。急傾斜の段畑で栽培していることから階段園土相全体に根が広がっている樹をどうやって伐採・抜根するか等問題点が多くあります。伐採後は「はるき」や「春峰」に改植したいと考えています。

また、後継者の息子が就農した際には農協出荷以外の販路の拡大、法人化、加工品づくりを検討しています。

平成 22 年に地域農業士に認定されてから、たくさんの方々と知り合いになれ、意見交換を通して私自身成長できたと感じています。

今後も、地域の方々と協力しながら有田の農業を発展させていきたいと考えています。



園内道の整備



温州みかんからセミノールへ改植



防風ネットの設置



スプリンクラーの設置



マルチ栽培園

私の農業

農業をするのであれば土との対話 ～環境にやさしい農業を目指して～

御坊市 地域農業士

森 〇 裕 隆



1. はじめに

私は、和歌山県立農業大学校を卒業後、山梨県にある種苗会社で1年間の研修を経て就農しました。就農時には、スターチス、カスミソウと農大・種苗会社で勉強してきたトルコギキョウの栽培をしていました。

繁忙期には、臨時的に雇用していましたが、ほぼ家族経営でしたので徹夜は当たり前の生活でした。

年とともに経営改善の必要性を痛感し、基幹品目をスターチスに集約するとともに労力を確保するため周年雇用することとしました。周年雇用するためには、夏場の作業も必要となるため、スターチスの後作としてメロン、スイカに加えスイートコーンやヒマワリを導入しました。加えて3年前からは、和歌山県で育種したシシトウ「ししわかまる」を試験的に導入しています。

2. 農業経営の特徴

私の住んでいる御坊市名田町は、海岸線に面しており温暖な気候で農業に適した地域です。

農業へのこだわりは、学生時代に恩師から頂いた「農業するのであれば土との会話」という言葉を大切にしていることです。

父の代では、土作りとしてもみ殻や稲わらを畑に入れていました。しかし、両親も高齢となり、私自身も数年前に椎間板ヘルニアを患い、もみ殻や稲わ

農業経営の概況

○作付品目と面積	
スターチス	80 a
メロン	8 a
スイカ	8 a
ヒマワリ	20 a
スイートコーン	8 a
その他	11 a
○労働力	
家族	4人
雇用	3人



基幹品目のスターチス

らを入れることが出来なくなりました。手術後は体と相談しながら、土作りとして手間の掛からない牛糞堆肥を入れていました。1年目は良かったのですが、2年目以降は、栽培しにくくなったため、土作

りの大切さを実感しました。

また、入院中に色々調べていると、竹をパウダー状にすると優良な土作り資材となることを知りました。地域には、放置された竹林が至る所にあるため、粉碎機を購入し竹パウダー作りに取り組んでいます。現在は、もみ殻や稲わらに加え竹パウダーもハウスへ投入しています。

また、農業は自然との共存です。環境にやさしく人にもやさしい農業を心がけ、メロン、スイカ、トウモロコシは、エコファーマーにも取り組んでいます。

これからも、恩師の言葉を忘れず「土との対話」を心がけていきたいと思っています。

3. 今後の経営方針

先ず健康で無理をしない農業を目指したいです。その上で、栽培技術の向上はもちろんのこと、遊び心を忘れずに日々新しい品目や技術を導入し、何に対しても「なせば成る、なさねば成らぬ何事も、努力に勝る天才なし」の言葉を胸に臨機応変に対応出来る農業経営に取り組んでいきたいと考えています。

具体的には、先ず1番目として、徹底した土づくりによる環境にやさしい農業の実現です。

2番目には、スタッフの周年雇用のため、年間を通し安定した仕事量を確保することです。

3番目は、チャレンジ精神で新たな作物の導入です。

そして、家族やスタッフが笑顔で取り組める農業を実現することです。

4. おわりに

早いもので、就農して早30年が過ぎようとしています。振り返ってみて思うことは、自分一人では何も出来ないということです。家族やスタッフの協

力、友人や先輩農家のアドバイスや指導があって、今の自分があるのだと実感しています。

これからは、家族やスタッフの幸せの実現に加え、微力ですが地域農業に貢献できるよう頑張っていきたいと思っています。



低コストハウスとパイプハウス



竹パウダー作り



出来上がった竹パウダー

楽しく、やりがいがある 農業経営を

田辺市 指導農業士

中道 昭人



1. はじめに

私は、昭和 55 年に大阪の就職先から農業後継者というよりは家の跡継ぎとして帰ってきました。

両親は専業農家でしたが、周りの農家と比較すると栽培面積が少なく、農業の傍らアルバイトをしなければ十分な生計を立てることが出来ませんでした。

そんな中、当時活発だった地域の 4Hクラブや J A 青年部の活動を通じて、いろいろな人達と出会い、活動の楽しさや仲間の行動力に刺激を受け、農業に対する考え方や取組も積極的に行うようになりました。ちょうどその頃から、梅干しの価格も右肩上がりとなり、やり方次第で少ない栽培面積でもそれなりに収入を上げることが出来るようになりました。

2. 農業経営の方針と状況

就農して 10 年目を迎えた頃、子供が小学校に入学する年齢となり、収入を増やすために栽培面積を拡大しようと考えていました。しかし、もともと個人販売や通信販売に興味があった私は、梅干しの二次加工についてアドバイスをしてくれる先輩の後押しもあり、栽培だけでなく、自ら加工販売まで行ういわゆる 6 次産業化への道を歩むことにしました。

当初はなかなか思うように販売が出来ず、挫折しそうな時もありましたが、根気強くやっていくうちに、加工技術の向上や販売のコツを徐々につかんで

いきました。

また、直接販売することで、顧客の方々と繋がりが持てるようになり、栽培だけでは学べなかったことや、やりがいなども見出すことが出来、6 次産業化による経営が軌道に乗るまでに多少時間がかかりましたが、安定収入が得られるようになりました。

現在の販売比率は、量販店等への販売 50%、個人販売 40%、通信販売 10%ですが、これからは通信販売の比率をもう少し上げていきたいと考えています。

ただ、販売するにあたり、HACCP（ハサップ）による衛生管理の義務化など、何かと制約が多くなり、そのための投資もしなければなりません。また、経理面でのデジタル化についても早急に進めていく必要がありますが、費用対効果を考えると悩みどころです。

今後、今の経営形態を維持していくは大変です

農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅（南高梅）	100a
○労働力	
家族	2人
常時雇用	1人
臨時雇用	1人



一次加工用倉庫



加工用原料保管庫



二次加工用調味タンク



商品出荷作業場

が、幸い二男が後継者として頑張ってくれていますので、アナログ世代の私に代わって上手に対応してくれるだろうと考えています。

3. 今後の経営方針

どのような仕事でも楽しくないとダメだと思っています。そのためには、やりがいを持っているか、収入にある程度満足出来ているか、そして自分自身が納得出来ているかが大切です。農家は個人事業主であり、経営者です。やり方次第でやりがいある楽しい農業経営が出来ると思います。

これからの農業は、今以上にスマート化が進んでいくと思います。近い将来モニターの画面を見ながら農作業を行う時代が来るかもしれません。そんな

ことを考えると、この歳の私でも心がワクワクします。

4. おわりに

私ももうすぐ指導農業士の定年を迎えますが、今まで支えていただいた仲間みなさんに感謝しつつ、私のこれまでの経験が少しでも若い農業後継者の方の参考になれば幸いです。

農業に懸ける想い

みかんで笑顔を

海南市 地域農業士

井 辺 耕 平



1. はじめに

私は平成18年に就農し、カンキツ専作農業をしています。果樹生産農家に生まれたのですが、大学では農業とは関係のない分野を学びました。卒業後は民間企業に7年間勤め、農業とは少し距離がありました。就農後は、新商品作りのために温州ミカンの新品種導入による老木樹の改植を行いました。

また、経営規模や販売チャンネルの拡大にも取り組みました。その間、地域の農業研究組織への加入・農業士や経営改善計画認定を受けるなどで多様な情報が得られるようになりました。

2. 農業への想い・取り組み

改植事業を活用し、老木樹や不良系統から早生優良系統への改植を毎年行い、未収益期間を少なくするため、早期成園化を目指しています。そのために施肥の工夫やマルチ敷設・夏場のかん水など乾燥防止に努めています。成園では適地適作の原点にたち園地を品質に重点を置く園、収量に重点を置く園に区分した適正管理を行っています。

品質の追求についてはフィガロン散布やマルチ敷設などの技術を駆使しています。技術を的確に活用するために作業や観察の記録、気象データ、簿記記帳などにより労力や経費、効果など分析を行い、次の生産にフィードバックします。

生産物の販売に関して、今は市場出荷中心ですが、

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州ミカン	300a
ハッサク	35a
清見	15a
○労働力	
家族	3人



改植樹の傍らで

将来はインターネット直販のウエイトを高め、顧客と顔の見える関係づくりを目指していきます。

就農してから16年経過し、自分の経営スタイルが出来つつあると考えています。これまで農業士会や地元の下津町農業研究青年同志会に所属させていただき、多くの人々と接してみかん作りの糧を得ることが出来ました。これからも人とのご縁やつながりを大切に、みかんで多くの笑顔を作れるように頑張りたいと思います。

農業に懸ける想い

四季ごとの花

紀の川市 地域農業士

宮崎 幸也



1. はじめに

私の妻の実家は戦前より代々続くシクラメン鉢花生産農家です。結婚して10年間サラリーマンをしていた私は「いつかシクラメン作りをしてみたい」と思っていました。というのも当時私は物作りの仕事（工作機械で製造）をしていて、花も同様に作れないかと思っていたからです。



出荷調整の様子

2. 農業への想い、取り組み

私は就農して8年が経ちましたが、この間にも気候が厳しくなっていて、特に最近では夏の気温がどんどん上がっています。鉢花はハウス内で遮光などができる環境で作っていますが、それでも夏の気温上昇が花に及ぼす影響は大きいです。



出荷作業の様子

農業経営の概況

○作付品目と面積	
シクラメン	10,000 鉢
サイネリア	4,000 鉢
アジサイ	5,000 鉢
カーネーション	2,000 鉢
バラ	1,000 鉢
ハイビスカス	1,000 鉢
○労働力	
家族	4 人
常時	1 人
臨時雇用	1 人

しかし、これも技術でカバーしています。それはお義父さんの長年の技術を聞き、私の今までしてきたものづくりの経験を花作りに活かしているからです。

また、同業者は他府県だけなので地方を訪問して技術情報を入手したりしています。

今後鉢花作りはますます厳しくなる環境と思いますが、お客さんに喜んでもらうことを第一に考え、作っていきたいと思います。



従業員との作業の様子

農業に懸ける想い

「柿の産地を次世代へ」

橋本市 青年農業士

山名和之



1. はじめに

私は元々、農業以外の仕事に就いていたのですが、常々自分で何か仕事をしたいと考えていました。その時に目に入ってきたのが柿です。橋本市は柿の産地でありながら、近年は耕作放棄地が増加しています。柿の木があるのだから、農地を借りて柿を作ったら良いのではと考え、平成 29 年に新規就農しました。農業を何も知らないところからスタートし、柿が収穫できるようになるまでの 3～4 年間、非常に苦労しました。本年からは、柿に加えてネギの栽培も始めました。農業を始めて 6 年目、ようやく経営が軌道に乗ってきたところです。

2. 農業への想い・取り組み

良い農地を次世代に残したい。その想いで遊休農地などを借り、規模拡大を続けてきました。現在の柿の栽培面積は約 180a。もう少し柿を増やしたいのですが、労力と効率を考えて、現在の面積以上は難しそうです。

摘蕾時は何とか人手を確保できるのですが、収穫時は人手不足でなかなか人が来てくれません。農地をまとめて借りるのが難しく、バラバラのほ場の移動に時間がかかっています。去年は柿をうまく作れたのですが、経費がかかり、面積は増えているのに手取りが思ったよりも少なくなりました。

作業の効率化により人件費を抑え、収益性を高め

農業経営の概況

○作付品目と面積		
柿	極早生	20a
	刀根早生	120a
	平核無	10a
	富有	30a
ネギ		25a
○労働力		
家族		2人
パート（季節雇用）		1～2人

る必要があります。

そこで、柿を補完する品目として、ネギの栽培に取り組みました。ネギは出荷調整に皮を剥くなどの作業がありますが、柿との労力分散が図れます。本年は 25a を栽培し、契約栽培と一部を直売所で販売しました。ネギの栽培に手ごたえを感じ、次作は 30a の農地を借り、作付けの準備をしています。

今後の方針ですが、柿の栽培面積は現状維持で麗玉の導入と富有柿の面積を拡大。ネギは栽培面積を 100a まで拡大し、白ネギ栽培にもチャレンジしたいと考えています。



柿の収穫



ネギほ場

農業に懸ける想い

父親から引き継いだみかん作り

有田市 地域農業士

伊藤 貴 啓



1. はじめに

私は、平成16年3月に県農業大学校を卒業し、父親から農業を継いでほしいとの要望を受け、卒業後すぐに就農しました。以降、両親とともに農業経営を営み、18年が経過しました。新たに近隣の農地（約40a）を購入し、温州みかんを中心に経営を行っています。父親が2年前に他界し、現在は母親と農業に励んでいます。

2. 農業への想い・取り組み

私が農業を始めた頃は、全体的に老木樹が多く生産性が乏しかったため、まず始めに改植を行うこととしました。早生中心の経営へと転換し、温州みかんの内早生の占める割合は現在約75%となっています。今後は、品質の良い「ゆら早生」や「田口早生」を増やしていきたいと考えています。また、「甘夏」を「南津海」に改植し新しい品種にもチャレンジしています。

栽培面で現在取り組んでいる事は、隔年結果是正と樹勢低下防止です。肥料の質や施用量にはこだわりをもっており、海草を混用した肥料を施用しています。少しずつですが効果が表れてきたように感じており、引き続き施用したいと考えています。

省力化については、父親が防除用スプリンクラーをほぼ全園設置していたので、負担なく薬剤散布を行っています。今後はフォークリフトやホイストク

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	220a
中晩柑	50a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	2人

レーンを導入し、更なる省力化を図っていきたいです。

出荷先については、三重県の市場をメインに3つの市場に出荷しています。個選は収穫後の選果や箱詰めが重労働であるため、今後は共選出荷なども視野に入れていきます。

農業は体にかかる負担は大きいです。しかし、自分で考えその考え通りに樹が反応し、また、変化が目に見えて表れた時はうれしく、大変やりがいを感じています。



温州みかんの収穫作業

農業に懸ける想い

安定したミニトマト生産を 目指して

印南町 地域農業士

廣野 宜伸



1. はじめに

私は25歳の時に就農し、今年で15年目になります。3人兄弟の次男ですが、小さいころから畑によく行き遊んでいたこともあり、家業である農業を継ぐのは自分だと思って育ちました。

農業という仕事は休みもないし大変なので、一時は他の仕事に就こうと思ったこともありましたが、働いている親の姿を見ているうちに、やっぱり農業をしたいと思う気持ちが強くなり就農しました。

2. 農業への想い・取り組み

我が家の経営の主力はミニトマトです。

JA紀州のミニトマト部会優糖星部に所属し、ブランドミニトマトの「優糖星」を生産・出荷しています。

「優糖星」の栽培は難しく、毎年同じ栽培管理をしていても同じ結果になりません。特にここ5、6年前からの異常気象で、栽培は思うようにいかずたいへん苦労しています。

そこで、高品質のミニトマトを安定して生産できるようにするため、最近、スマート農業に関心をもつようになりました。

今後、環境制御機器の導入を考えており、そのため情報収集や勉強をしているところです。

これからも、消費者の方々に喜んでもらえるように栽培技術を向上させ、高品質なミニトマト栽培を続けていきたいと思いをしています。

農業経営の概況

○作付品目と面積 ミニトマト	27a
○労働力 家族	4人



収穫期を迎えたミニトマト



収穫作業

農業に懸ける思い

我が家の農地を守っていくために

上富田町 地域農業士

谷 口 哲 嗣



1. はじめに

私は高校卒業後、地元の企業に就職し、5年間働きました。24歳の時、結婚を機に就農し、今年で16年目になります。

2. 農業経営への思い・取り組み

我が家は、梅と柑橘類を栽培しています。

24歳で就農するまで、農業経験は全くなく、何もかもが初めてで、戸惑ってばかりの毎日でした。自分なりに試行錯誤しながら、周囲の先輩方やJAの営農指導員の方々に一から教えていただき、アドバイスを受けながら日々の仕事に取り組みました。

町の農業後継者クラブの活動やJAの梅やみかん部会の活動に積極的に取り組み、役員も務めました。地域の農家と繋がりを持つようになり、今では栽培技術や経営面で意見交換ができるようになりました。

就農した頃は、梅がメインで温州みかんは早生の老木園しかなく、収量も安定していませんでした。そのため、計画的に改植を行い、新たに極早生みかんを新植しました。また、品質向上を図るため、マルチ栽培も取り入れました。

ほとんどがJAを通じて出荷しており、現在、高単価で販売できるよう、「こだわりグループ」のメンバーとして、品質向上につながる施肥やかん水量を考えながら栽培を行っています。

今後も、計画的に老木園の改植を行うとともに、

農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	130 a
柑橘類	70 a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	3人

農作業の省力化や効率化を図るため、スプリンクラーを導入したり、マルチによる高品質生産に努め、我が家の農地を守り続けていきたいと考えています。



新植した極早生温州みかん園



剪定後の梅園

県農林大学校生です。

～農林大学校1年生の自己紹介&近況報告～

園芸学科



私は農林大学校1年谷岡拓馬です。出身は紀の川市です。

私は中学校の時に農業に触れる機会があり、栽培や販売について経験しました。そこで、自分のやり方、方法による生育の違いや植物よっての違いなど、様々な可能性があり、自分にとってやり甲斐を持つことができたからです。

高校は紀北農芸高校に進学し、そこでは野菜を専攻して、栽培管理の基礎を学びました。農林大学校では、野菜の新しい栽培方法やスマート農業、GAPなどの技術を学びたいと思い進学しました。

将来は農業関連企業に就職し、資金を貯めてから野菜農家になりたいと思っています。そのため、これからもっと授業や実習を頑張り、知識や技術を身につけて、多くの資格取得も目指していきたいと考えています。



私は、和歌山市出身で、高校は和歌山北高校卒業です。

私が農業に興味を持ったのは、自然の中で体を動かすことが好きだったのもありますが、私たちの源となる「食」についても触れてみたかったことがきっかけです。

将来は仕事をしつつ、自分の手で一から作れたらと思っています。学校では、色々な資格を取得して就職に繋がれたらと思っています。そして、農業の知識も身につけて世の中の食料問題を少しでも解決できたらと思います。あとは仲間と共に精一杯楽しもうと思っています。



私は大阪府四條畷市出身の西村貴太です。

高校は大阪府農芸高等学校に進学し、カンキツの研究を行っていました。研究を続けているうちにどんどん「もっとカンキツの栽培や実習をしてみたい」と思ったのがきっかけで、和歌山県農林大学校の農学部に入学しようと思いました。

将来はカンキツとシャインマスカット栽培を主とした農園を作り経営してみたいと考えています。そのために学校でたくさんの資格を取得し、また、農業の知識を深めていきたいと思っています。

私は大阪府藤井寺市出身で、高校は大阪の農芸高校に通っていました。ここでは、旬の果物をジャムにしたり、自分の所属していた食品流通専攻では、あんパンや塩パンなどのパン類、うどんなどを一から材料を測って製造するなどの加工技術を学びました。しかし、高校では農業のことは少ししか学ばなかったため、もっと詳しく学びたいと思い、農林大学校に入学しました。

農林大学校では高校より実習時間が長く、より専門的なことを学べるので、実習や授業の時間を大切に、多くの資格取得を目指します。将来は、農産物の加工と農業、どちらの分野でも活躍できる人材になるために、まずは農林大学校の2年間を精一杯頑張ります。



アグリビジネス学科



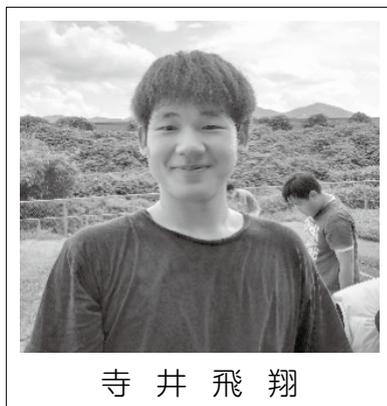
私は、岩出市出身で、高校は通信制のYMCA 学院高等学校に通っていました。農林大学校に入学した理由は、花屋に就職してフラワーアレンジメントの仕事をするための花の保存法や栽培技術などの基礎知識を学び、花そのものや保存状態の善し悪しを判断する力を身につけたいからです。また、フラワー装飾技能士の資格を取るための勉強ができるので入学しました。

進路については、近くの花屋に就職しようと考えていましたが、学校の専攻実習が好きなので農業法人に就職する方が私に向いているのではないかなと思うようになり、進路に悩んでいます。そのため、農林大学校で経験を積んでどちらかを考えていこうと思います。

私は橋本市出身で、実家はカキを栽培している兼業農家です。

将来は、JAの営農指導員を目指しています。

父とともにカキの栽培管理をしている際、専門的な知識や技術が必要となり、父がそれらを持ち合わせていないことで苦労しており、そのときに、農業の知識や技術を必要としている人たちが情報共有できるようにすることが必要ではないかと感じたので、この学校で専門的な知識と技術を学ぼうと入学を決意しました。



私は、御坊市出身の寺井飛翔です。

将来の夢は、立派な農家になることです。そのために専門的な技術や知識を学ぶためにこの農林大学校に入学しました。

私がなぜ農家になりたいと思ったかということ、実家が農業を営んでおり、高校生の頃から農家になってみたいと思っていて、この学校を父が勧めたので頑張りたいなと思ったからです。

この学校では、2年間ですべての資格を取得し、色々なことを身につけ、農業をするうえで活かしていけたらいいなと思います。頑張ります。

試験研究レポート

REPORT

ビワの新害虫ビワキジラミに対する防除対策について

果樹試験場 環境部 研究員 松山 尚生

1. はじめに

ビワキジラミは2012年に国内で初めて発見された新種のビワの害虫で、2018年以降は本県でも生息が認められています(図1)。幼虫は「甘露」と呼ばれる排泄物を排出し、そこにカビが発生することによるすす症状を引き起こします(図1)。本県においても被害が問題となっていることから、防除対策を確立するため各種試験を行いました。



図1 ビワキジラミとその被害(左:幼虫、中:成虫、右:果実のすす症状による被害)

2. 試験研究の内容・結果等

○各種薬剤の防除効果

海南市のビワ栽培ほ場において、本種の防除時期である3月(幼果期)と11月(開花初期)に幼虫を、6月(収穫後)に成虫をそれぞれ対象として薬剤散布試験を行いました。供試した薬剤のうち、幼果期にはモスピラン顆粒水溶剤、開花初期にはサンマイル水和剤、収穫後にはスカウトフロアブルが最も高い防除効果を示しました。(表1)。

表1 ビワキジラミに対する各種薬剤の防除効果(2021~2022年)

RAC コード	薬剤名	希釈 倍数	防除効果 ¹⁾²⁾		
			幼果期(3月)	収穫後(6月)	開花初期(11月)
1A	オリオン水和剤	1000	△	○	-
3A	スカウトフロアブル	2000	○	◎	△
4A	モスピラン顆粒水溶剤	2000	◎	-	△
4A	スタークル/アルパリン顆粒水溶剤	2000	○	-	△
21A	サンマイル水和剤	3000	△	◎	○
23	モベントフロアブル	2000	-	-	△

1)◎は補正密度指数10以下で効果が高い薬剤、○は同11~30で効果が認められる薬剤、△は同31~50で効果は認められるがその程度はやや低い薬剤を示す

2)-は実施していないことを示す

○幼果期におけるハンドスプレーを用いた防除法について

本県では、幼果期の防除は摘果・袋掛けの前に行われています。しかし、摘果前は果実が混み合い、隙間に潜む幼虫に薬液が届かないため防除効果が不安定です。そこで、摘果直後にハンドスプレーで薬液を散布し、その直後に袋掛けを行うといった防除法の効果を調査しました（表2）。ハンドスプレー防除区は慣行防除区、無処理区と比較して被害果率が大幅に低く、有効な防除法と考えられました（図2）。

表2 ビワキジラミに対するハンドスプレーによる防除試験の処理方法

区	処理方法 ¹⁾
ハンドスプレー防除区	果房あたり3果を残して摘果を行い、その直後にハンドスプレー（容量：500mL、散布量：30mL/果房）で薬剤散布を行った。散布直後に袋掛けを行った。
慣行防除区	動力噴霧機で樹全体に薬剤を散布した。樹が乾いた後果房あたり3果を残して摘果を行い、その直後に袋掛けを行った。
無処理区	果房あたり3果を残して摘果を行い、その直後に袋掛けを行った。

- 1) 薬剤：スタークル顆粒水溶剤2,000倍（まくぴか5,000倍加用）、
処理日：慣行防除区4月4日、ハンドスプレー防除区4月5～7日
2) 6月8～9日に全果実を収穫し、すす症状による被害の有無を調査した。

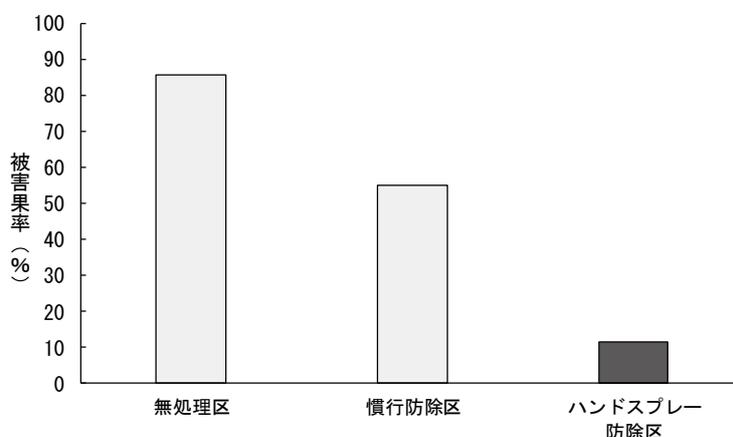


図2 ビワキジラミに対するハンドスプレーによる被害抑制効果（2022年）

3. まとめ

幼虫は花蕾の内部や果実の隙間など薬液がかかりにくい部位に生息していることから、幼虫の発生が多い幼果期や開花初期の動力噴霧機による防除は薬液が虫体にかかるよう、丁寧な散布を心がけます。また、ビワは枝葉の表面が細かい毛に覆われており薬液をはじくことから、散布薬液に展着剤（商品名：まくぴか）を加用してください。

なお、ハンドスプレーを用いた防除法については、至近距離で薬剤を散布することになるため、防除衣（カップ、手袋、マスク、ゴーグルなど）を確実に着用する必要があります。

試験研究レポート

REPORT

実エンドウ新品種「光丸うすい」の栽培技術

農業試験場暖地園芸センター 育種部 主任研究員 宮前 治 加

1. はじめに

本県では日高地域を主産地に露地やハウスで実エンドウが栽培されています。主要品種の「きしゅううすい」は、草丈が高く、特にハウス栽培では台に乗り降りしながらの作業となり、労働負荷が大きいため、草丈の低い品種が望まれています。新品種「光丸うすい」(2022年3月品種登録、育成者：大野光男氏)は、莢や青実の外観品質が「きしゅううすい」と同等で草丈が「きしゅううすい」の75%と低く、作業性の向上が期待されます。当センターでは、令和2年度より「光丸うすい」の秋播きハウス冬春どり作型における栽培技術開発に取り組んでいます。ここでは、これまでに得られた成果をご紹介します。

2. 初期収量を確保するための栽培技術

「光丸うすい」は、「きしゅううすい」よりもやや晩生であるため、1～2月の収量が少なくなります。初期収量を増加させるためには以下の技術が有効でした。

1) 播種時期の前進

「光丸うすい」を「きしゅううすい」と同じ日に播種すると、収穫開始日は「きしゅううすい」より遅くなりますが、「きしゅううすい」より5日早く播種することで、「きしゅううすい」と同時期から収穫でき、初期収量も増加しました(図1)。

2) 低温期に登熟した種子の利用

低温期に登熟した種子(12月に開花した莢から採種)では、高温期に登熟した種子(4月に開花した莢から採種)よりも開花日で10日、収穫開始日で17日早くなりました(表1)。また、「きしゅううすい」の高温期の種子より3日開花が早まりました。

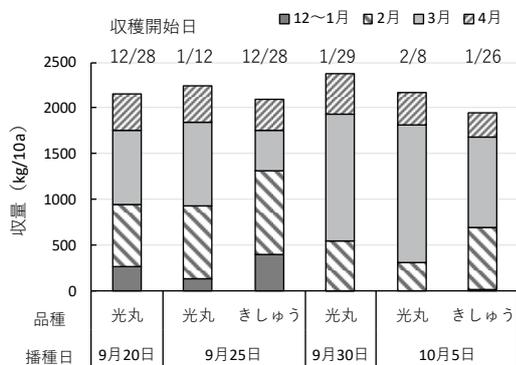


図1 播種日と収穫開始日および時期別収量

表1 種子の開花時期が開花、収穫開始に及ぼす影響

品種	種子の開花時期	開花開始日	収穫開始日
		(月/日)	(月/日)
光丸うすい	12月(低温)	11/10	1/15
	4月(高温)	11/20	2/1
きしゅううすい	12月(低温)	11/8	12/24
	4月(高温)	11/13	1/13

注) 播種：2020年9月30日、開花促進処理：白熱電球で10月9日～21日(3-8葉期)まで終夜照射した

3) 長期間の電照処理

「きしゅううすい」では開花促進のために3～8葉期(2週間)に電照を行います。この期間を0～10葉期(4

週間)までと長くすると、高温期に登熟した種子においても開花が早まり、1～2月の収量が増加しました(図2)。しかし、電照期間が長くなると草勢が弱くなるため、低温期に登熟した種子では3月以降の収量が少なくなり、総収量はやや少なくなりました。

3. 厳寒期の莢品質向上技術

「光丸うすい」は「きしゅううすい」に比べて厳寒期のL莢率が低く、莢がやや小さい特性があります。このため、莢品質を向上させる管理方法を検討しました。

1) 施肥方法

総N施用量24kg/10aでは、基肥-追肥を6-18kg/10aとすると、基肥-追肥12-12kg/10aとするより1～2月のL莢率が高く、収量も多くなりました(データ省略)。「光丸うすい」は基肥を少なくし初期の草勢を抑え、追肥で草勢を維持する施肥方法が適すると考えられます。

2) 栽植本数、誘引方法および日中温度

莢品質向上には、莢への日当たりを良くすることが重要となります。栽植本数を10本/mとすると、慣行の15本/mよりも収穫莢数は少なくなりましたが、1莢重が大きくなり、慣行と同等の収量が得られました(表2)。また、誘引方法については、「きしゅううすい」では株元を2回折り返しますが、これを1回とすると、低節位に結莢する莢の地表面からの位置が高くなり莢品質が向上しました。

日中の低温は正常に肥大する子実数が減少し、遮光下ではこれがより顕著になります(図3)。しかし、日中を20℃で管理すると、遮光条件下においても子実が正常に肥大し、高いL莢率となりました。このことから、厳寒期に曇天が続く時には、サイドの換気時間を遅らせるなど日中の気温を高めに管理することで、莢品質が向上すると考えられました。ただし、換気不良となるため、病害の発生には注意が必要です。

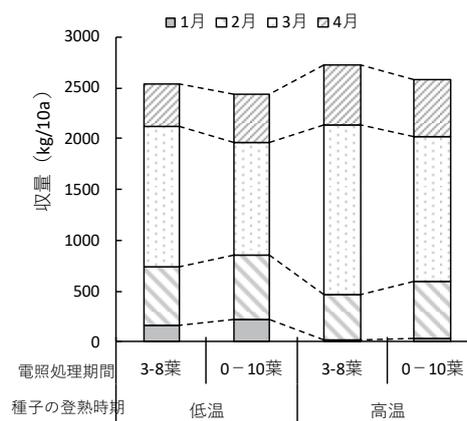


図2 種子の登熟時期および電照処理期間と時期別収量

表2 栽植密度が収量、1莢重に及ぼす影響

栽植本数 (本/m)	収量 (kg/10a)	収穫莢数 (莢/m ²)	1莢重 (g/莢)
15本/m	2,171	232	9.4
10本/m	2,160	209	10.4
7.5本/m	2,092	197	10.6

注) 播種日: 2020年10月5日、畝幅: 1.6m

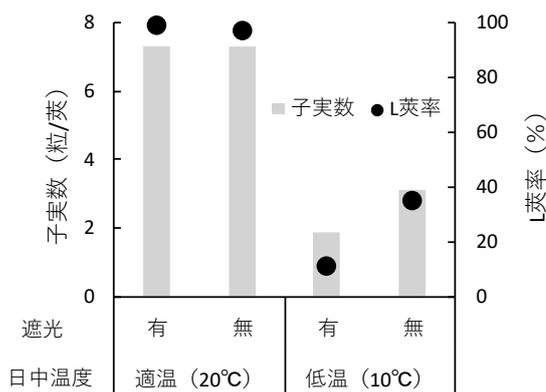


図3 日中温度、遮光の有無と莢品質
注) 夜温は5℃で管理

4. まとめ

現在、当センターではJA紀州、日高振興局農業水産普及課と連携し、現地ほ場において得られた技術の実証や栽培特性を調査しています。試作して頂いた生産者からは作業性が良いという意見が多く聞かれます。今後は現地普及に向けて栽培マニュアルを作成する予定です。

試験研究レポート

REPORT

ウメにおける単肥および鶏糞堆肥を活用した施肥の低コスト化

果樹試験場うめ研究所 研究員 梶野高志

1. はじめに

ウメの肥料原料の多くは輸入に依存しており、近年の世界情勢の影響により国内の肥料価格は上昇傾向にあることから、低コスト施肥体系の確立が望まれています。そこで、安価な単肥や鶏糞堆肥を組み合わせた低コスト施肥体系が収量、土壌理化学性、樹体生育に及ぼす影響について調査しました。

2. 試験研究の内容・結果等

(1) 低コスト施肥体系の施肥管理

「南高」18年生を供試して2019年4月から4年間試験を行いました。試験区は、単肥区、単肥+鶏糞堆肥区、慣行施肥区を設けました。単肥区は硫酸アンモニウム、BM ぼうりんおよび硫酸カリウムを施用しました。単肥+鶏糞堆肥区は実肥と礼肥は単肥区と同様に施用し、元肥に発酵鶏糞堆肥を組み合わせる施用しました。慣行施肥区は対照として有機配合肥料を施用しました。施用成分量および施肥時期は、表1のとおりとしました。

表1 各試験区における資材および施用成分量

試験区	施肥時期	資材 (N-P ₂ O ₅ -K ₂ O(%))	有効成分量(g/樹)		
			N	P ₂ O ₅	K ₂ O
単肥区	4月上中旬	硫酸+BMぼうりん+硫酸リ(21-20-50)	120	67	211
	5月上中旬	〃	120	67	106
	6月下~7月上旬	〃	320	179	176
	9月下旬~10月上旬	〃	240	134	211
合計			800	448	704
単肥+鶏糞堆肥区	4月上中旬	硫酸+BMぼうりん+硫酸リ(21-20-50)	120	67	211
	5月上中旬	〃	120	67	106
	6月下~7月上旬	〃	320	179	176
	9月下旬~10月上旬	硫酸+BMぼうりん+硫酸リ(21-20-50) 鶏糞(2.3-5.1-3.2)	120	134	211
合計			800	885	1015
慣行施肥区	4月上中旬	南高タブレット(8-5-7)	120	75	105
	5月上中旬	〃	120	75	105
	6月下~7月上旬	〃	320	200	280
	9月下旬~10月上旬	〃	240	150	210
合計			800	500	700

鶏糞の肥効率はN:50%、P₂O₅:80%、K₂O:90%として算出した。

(2) 低コスト施肥体系が収量に及ぼす影響

果実は青果収穫期(6月上中旬)に収穫し、各樹の収量を求めました。収量については、4年間を通じて各処理区間で有意な差はありませんでした(図1)。また、階級構成の大玉果率(全収量に対する2L階級以上の果実重量の割合)にも有意な差がありませんでした(表2)。

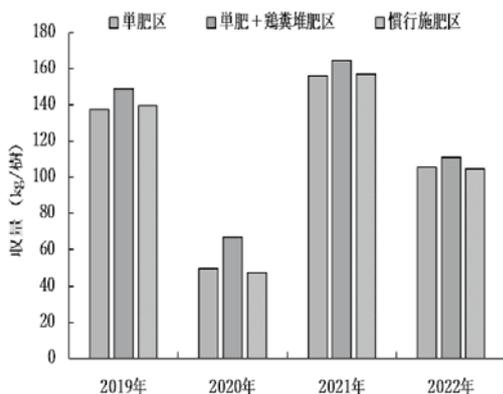


図1. 施肥体系の違いによる収量

表2 施肥体系の違いによる収穫果実の階級構成

年	試験区	階級構成(%) ^z						大玉果率(%) ^y
		S	M	L	2L	3L	4L	
2019	単肥区	5.8	13.4	39.3	35.0	6.4	0.1	41.5
	単肥+鶏糞堆肥区	5.2	13.6	42.2	34.0	4.8	0.0	38.9
	慣行施肥区	2.8	7.3	34.1	42.0	13.2	0.5	55.8
2020	単肥区	0.8	2.2	14.0	37.3	42.0	3.8	83.1
	単肥+鶏糞堆肥区	0.6	2.2	14.4	44.7	35.2	3.0	82.8
	慣行施肥区	0.2	0.7	6.2	37.6	48.6	6.8	93.0
2021	単肥区	6.4	13.6	32.3	35.5	11.5	0.7	47.7
	単肥+鶏糞堆肥区	8.3	15.5	33.1	34.9	7.5	0.7	43.1
	慣行施肥区	2.7	8.4	27.7	41.0	18.4	1.7	61.1
2022	単肥区	2.5	6.4	32.8	46.1	11.6	0.6	58.3
	単肥+鶏糞堆肥区	4.6	9.6	32.5	40.9	11.5	0.9	53.3
	慣行施肥区	2.9	7.7	28.1	39.8	18.3	3.2	61.3

^z重量による割合。果実直径により階級(S<30mm≤M<33mm≤L<37mm≤2L<41mm≤3L<45mm≤4L)を選別した。
^y全収量に対する2L以上の果実重量の割合

(3) 低コスト施肥体系が土壤理化学性および樹体生育に及ぼす影響

土壤無機成分含量について無機態窒素、可給態リン酸、交換性塩基および腐植含有率は試験期間を通じて各試験区でほぼ差はありませんでした（データ省略）。土壤 pH は、各試験区とも年数の経過とともに低下する傾向を示し、試験最終年の 2022 年には、pH4.6 ~ 4.8 まで低下しました（図2）。このことから、低コスト施肥体系の導入の際は、連年の施用により土壤 pH が低下した場合、慣行施肥体系と同様に石灰による pH の矯正が必要となります。

樹体生育について、樹容積、幹周、幹肥大指数および徒長枝本数は試験期間を通じて各試験区でほぼ差はありませんでした（表3）。

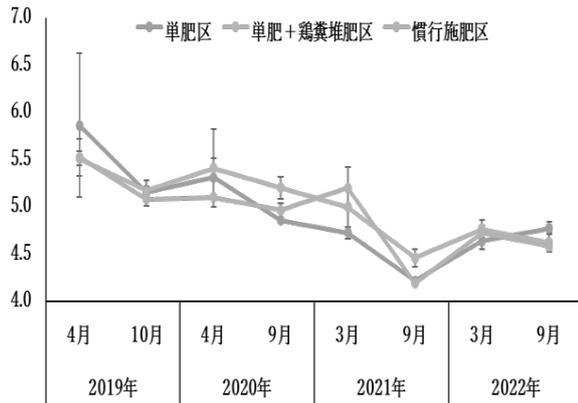


図2. 施肥体系の違いによる土壤 pH の推移
図中のバーは標準誤差を示す

表3 施肥体系の違いによる樹体生育

年	試験区	樹容積 (m ³)	幹周 (cm)	幹肥大指数 ²	徒長枝本数 (本/m ²)
2019	単肥区	132.7	83.8	-	4.9
	単肥+鶏糞堆肥区	124.7	90.5	-	4.4
	慣行施肥区	120.8	88.2	-	5.4
2020	単肥区	143.6	90.3	107.8	4.2
	単肥+鶏糞堆肥区	162.7	102.0	112.5	3.9
	慣行施肥区	187.0	98.7	112.0	3.8
2021	単肥区	154.9	95.2	113.5	3.0
	単肥+鶏糞堆肥区	173.8	103.5	114.2	3.1
	慣行施肥区	156.9	101.8	115.6	3.4
2022	単肥区	155.9	101.4	121.0	5.0
	単肥+鶏糞堆肥区	171.4	109.5	121.0	4.8
	慣行施肥区	169.4	109.2	123.9	5.4

²幹肥大指数は2019年11月調査時の幹周を100とした指数

(4) 施肥体系の違いによる施肥コスト

施肥コストは、2022年10月における主産地の販売単価（JAおよびホームセンターの単価を調査）を基に各試験区の窒素成分が同じ（25kg / 10 a / 年）になるよう算出しました。その結果、慣行施肥区と比較したコストの削減効果は、単肥区は45%削減、単肥+鶏糞堆肥区は43%削減と試算されました（表4）。

表4 施肥体系の違いによる施肥コスト

試験区	価格(円/10a)	コスト削減率(%) ²
単肥区	34,000	45
単肥+鶏糞堆肥区	35,000	43
慣行施肥区	62,000	-

²コスト削減率={1-(単肥区および単肥+鶏糞堆肥区の価格/慣行施肥区の価格)}×100

3. まとめ

単肥や鶏糞堆肥を組み合わせた施肥体系は、慣行施肥体系と比較して施肥コストを43～45%削減することが可能で、収量や土壤理化学性、樹体生育が同等のため、コスト低減技術として活用可能と考えられました。ただし、連年の施用により土壤 pH が低下した場合、慣行施肥体系と同様に石灰による pH の矯正が必要となります。

農業士会支部活動レポート

REPORT

令和 4 年度和海地方農業士会 活動ダイジェスト

和海地方農業士会事務局

1. 令和 4 年度和海地方農業士会総会を開催

4月15日、海南市農村婦人の家において、和海地方農業士会（会長：河嶋保儀）が令和4年度の総会を開催しました。新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため、出席者は役員、理事の13名に限定した開催となりました。

総会では活動経過、活動計画、役員改選について審議され、新会長に松本弥氏が承認されるなどすべての議案が承認されました。総会後に開催された研修会では、県経営支援課の林主任から「和歌山県のスマート農業の取り組みについて」、海草振興局の萩平普及指導員から「クビアカツヤカミキリ対策について」と題して講演いただき、新たな農業へのアプローチや産地への脅威に関する情報を共有することができました。出席者からは、山林での大木の枯れ込みの原因などクビアカツヤカミキリとの関連性について質問が寄せられ、関心の高さが伺えました。地域が一体となって産地を守るために、身近なバラ科植物（さくら、すもも、うめ、ももなど）での異変を見かけたら情報提供いただくよう協力を呼び掛けました。



総会



講演（スマート農業）

2. 下津町農業士会が下津第二中学校で「下津みかん出前授業」を開催

下津町農業士会（会長：井辺耕平）は、下津みかん産地の将来を担う子供達に下津みかん産地の現状や課題、農業の魅力等を学んでもらうことを目的に、2年前から継続して下津第二中学校2年生を対象に「下津みかん出前授業」を開催しています。今回は10月27日に44名を対象に開催しました。はじめに農業水産振興課から「下津みかん」及び「日本農業遺産（下津蔵出しみかんシステム）」について説明し、続いて農業士会員3名からみかん栽培の魅力や農業を仕事にした理由等について話した後、会員が持参した極早生みかん（日南、

ゆら早生)を試食。その後、生徒達は12グループに分かれ、①みかんの消費拡大、②農業を仕事にする条件をテーマに討議を行い、最後に意見をまとめグループごとに発表しました。発表では「SNSやCM、スーパーのPOP広告やポスターを活用して下津みかんをPR」、「みかんに関するイベントを開催」、「みかんの栄養価と健康への効能を紹介」、「みかんを使ったおすすめレシピを公開」、「安定した収入を得られるような法人を設立」、「作業を機械化して、省力化」、「農業の魅力や楽しさを伝える本や漫画、ドラマを制作してPR」など産地の活性化につながるような意見が多数あり、農業士会員と中学生双方にとって、今回の出前授業は地域の特産である下津みかんについて深く考える大変良い機会となりました。

下津町農業士会の会員は、後継者不足に対して大きな危機感を持っており、地元の子供達に農業の魅力を早い時期からよく知ってもらい、少しでも後継者の確保につながればとの思いがあります。そのためにも、今後も下津町内の小中学校での「下津みかん出前授業」を継続していきたいと考えています。



蔵出しみかんシステムの紹介



グループごとに意見発表

3. 河西農業士会簿記研修会を開催

河西農業士会(会長:増田恵一郎)で簿記研修会を開催しました。研修会は、11月14日、21日、28日の3回、中州出荷組合会議室で実施しました。この研修会は、昨年度、新たに4名が青年農業士に認定されたので、青年農業士を中心に農業簿記を学んでもらうこと目的に開催しました。講師に海草振興局農業水産課の宮向課長を迎え、各回、青年農業士を中心に6名の参加がありました。第1回目は、単式簿記と複式簿記の違いについて、第2回は、複式簿記について勘定科目の仕分けや貸借対照表と損益計算書の作成の仕方、第3回は、損益計算分岐点の算出方法や損益分岐点分析などの講義が行われました。参加者は熱心に受講し、最終日には「簿記の重要性を感じた」「これから親に代わって自分で申告するようになるので勉強になった」「簿記の仕組みを習い、経営の考え方が変わった」との声が聞かれました。また、今後もこういった研修会があれば参加したいとの声が多く、これからも継続して実施していきたいと考えています。



研修会の様子

農業士会支部活動レポート

REPORT

伊都地方農業士連絡協議会の活動

伊都地方農業士会連絡協議会事務局

1. 総会および研修会の開催

令和4年4月14日、橋本市民会館において、令和4年度伊都地方農業士連絡協議会の総会を開催しました。開会にあたり、辻会長から挨拶を行い、続いて来賓の平木橋本市長、紀北川上農業協同組合の村田代表理事専務、伊都振興局農林水産振興部の谷口部長からご祝辞を賜りました。続いて、前年度末で退任された農業士、及び新規認定者の紹介を行いました。総会には会員ら42名の出席があり、全ての議案が承認されました。



主催者挨拶（辻会長）



来賓祝辞（平木橋本市長）



新規認定者の紹介



講演（高平氏、中浴氏）

総会後の研修会では、株式会社 八旗農園 代表取締役 高平昌英氏（紀の川市地域農業士）、専務取締役 中浴泉氏（紀の川市指導農業士）のお二方から、「6次産業の取組み 丹精込めた果物に付加価値を」と題してご講演をいただき、農園のあゆみや農園情報、これまでの取り組みについて紹介いただきました。お二方はもともと農家ではなく、他業種からの農業参入者であり、他業種での経験を生かした農業生産と6次産業化に取

り組んでいます。八旗農園の桃ピューレの製造販売や緑キウイピューレの特徴、商品開発の意義など、日頃なかなか聞くことの出来ない貴重なご講演に、出席した農業士らは熱心に聞き入り、活発な意見交換を行うことができました。今回の研修会を契機に、当地域においてもより一層の6次産業化の取組が広がり、農業経営の発展につながるのではないかと期待しています。

2. 鳥獣害対策研修会の開催

令和5年1月26日、伊都振興局において、令和4年度伊都地方農業士連絡協議会主催の鳥獣害対策研修会を開催したところ、会員および関係者16名の出席がありました。

開会にあたり、社会長から新型コロナウイルス感染症の感染拡大により厳しい状況が続く中、久しぶりに研修会を開催できてよかったとの挨拶がありました。

研修会の講師には、株式会社 野生鳥獣対策連携センター 兵庫事業部（兵庫県丹波市）の森口弥沙氏を招き、「イノシシ、シカの対策について」と題して講演をいただきました。講師からは多くの動画を用いて説明があり、会員らは日ごろ見ることにできないイノシシ、シカの実際の活動状況などを視聴し、現場で活用できる貴重な情報に熱心に聞き入っていました。

講演後の質疑応答では、シカの餌付けのエサには何が良いか。音やピンクテープによるシカの忌避効果はどうかなど、実際に自ら現場で行っている取組について様々な質問が出され、講師からは丁寧な回答をいただきました。

今回の研修会を契機に、当地域においても鳥獣害対策が進み、被害の軽減につながることを期待しています。



会長挨拶



講演（森口氏）

農業士会支部活動レポート

REPORT

令和4年度有田地方農業士協議会の活動について

有田地方農業士協議会事務局

有田地方農業士協議会（会長：森田耕司）では、生産技術の向上と農業経営の発展を目指し、講演会や研修会を開催しています。

1. みかん収穫労力確保研修会の開催

平成30年度に行われたアンケートによると、みかん農家の約6割が収穫期に雇用労働力を導入しています。しかしながら地元の被雇用者は限られていて、安定した収穫労働力を確保するためには県外からの労働者の滞在施設の確保が欠かせなくなっています。

令和4年7月22日（金）、有田川町のきびドームにおいて有田地方農業士協議会とブランドありだ果樹産地協議会の共催による労働力確保研修会が開催され、各市町から農業士、JAありだ無料職業紹介所利用者及び関係者併せて48名が参加しました。

今回の研修会は、南部地方で職業紹介業とともに労働者の宿初施設の確保等に精通している（株）アグリナジカン 代表 山下丈太氏による講演会と有田や下津地域で滞在施設や交流施設を運営している3名の方々及びJAありだで農業求人サイトを担当している職員を加え、現場の実情と他県での取り組みなどについて意見交換会を行いました。

山下氏からはこれまでの経歴と（株）アグリナジカンの事業内容、みなべ町での滞在施設確保への取り組みについて具体的な説明がありました。

意見交換会では、各々が取り組んでいる内容や課題等の紹介のあと、被雇用者とのコミュニケーションの取り方や互いに訊きたいことなどについて意見交換を行いました。滞在施設を提供している彼らはそれを営利活動とは考えておらず、交流や他の事業と抱き合わ



講演（アグリナジカン 山下氏）



意見交換会

せで総合的に考えていることが印象的でした。

参加者からは、紹介された雇用者とのミスマッチをなくす工夫や滞在施設となる空き家の探し方など熱心な質疑応答が行われました。

2. アシストスーツの試着体験

令和4年度有田地方農業士協議会・有田地方4Hクラブ連絡協議会（会長：亀井勇希）主催の合同研修会を県果樹試験場において9月9日～14日に開催しました。

この研修会は、新型コロナウイルス感染症対策として密を避けるため、各支部ごとの開催としました。県研究推進室が、農家の試用を目的に果樹試験場に配置しているアシストスーツを借用して、各会員が試着、使い心地を体験しました。各市町から農業士・4Hクラブ員、関係者併せて計21名の出席がありました。

アシストスーツは3タイプあり、それぞれ体格に合ったサイズのアシストスーツを選択して試用する必要があります。会員の感想によると、アシストスーツは板バネやゴムの反発力を利用したものであり、持ち上げ作業への効果は限定的であるものの、同じ姿勢を継続する作業の場合は効果が高いのではないかとのことでした。どのタイプにしても足や腰を拘束しないといけないところがあり、その点については個人によって好みが変わるところでした。



アシストスーツの装着と効果の体験

農業士会支部活動レポート

REPORT

日高地方農業士会の活動について

日高地方農業士会事務局

1. 地域リーダー研修会の開催

11月21日、日高地方農業士会（会長：平林孝郎）では、会員の資質向上と相互の親睦を図るため、先進地研修を実施し19名が参加しました。今年度は、大阪府にある日本農薬(株)総合研究所と大阪公立大学植物工場研究センターで研修を行いました。

日本農薬(株)総合研究所では、新薬創出の基本となる合成・探索研究から安全性試験、製品の実用化研究までを研修しました。農業にとって農薬はなくてはならないものであり、農薬抵抗の発現等について質問ができました。

大阪公立大学植物工場研究センターでは、AIやICT技術を活用した完全自動技術による機能性植物の生産方法の確立や栽培品目の多品目化、生産の省資源・高効率化に向けた栽培技術の研究開発に取り組んでいます。環境制御装置を活用して農産物を栽培している会員もおり、熱心に説明を聞いていました。



日本農薬(株)総合研究所

2. 現地研修会の開催（女性部会）

日高地方農業士会女性部会（会長：菊地晴美）では、毎年、各市町持ち回りで現地研修会を行っています。今年度は御坊市で11月7日に18名が参加し、ヨシダエルシス(株)と御坊寺内町で研修しました。

ヨシダエルシス(株)は、御坊市に本社を置く養鶏の自動給餌システムで国内トップのシェアを誇る企業です。地元企業を見学する機会が少ないため興味深く説明を聞いていました。

御坊寺内町は、本願寺日高別院を中心に問屋などが軒を並べて栄えた地域であり、語り部の案内により御坊

市の成り立ちや歴史について学びました。

現地研修会終了後、御坊市長、日高振興局長を迎えて意見交換会を行いました。各家庭における女性の経営への参画や後継者対策、労働力不足等について意見交換がなされました。



ヨシダエルシス(株)



御坊寺内町

3. 花育活動を実施

5月13日、日高地方農業士会と日高地方花き連合会（会長：弓倉弘）は共催で花育活動を実施しました。全国有数の花き産地である当地方の花の生産について、小学生に知って欲しいと毎年実施しているもので、今回で14回目となります。

日高管内の花き生産者から提供されたスターチスや宿根カスミソウ、ガーベラなどを使って花束を作成し、小学校31校の5、6年生（80クラス、1,202名）に届けました。また、希望のあった9校では贈呈式を行い、うち5校でミニ花束づくり体験を実施しました。

平林会長は「きれいな花を眺めると優しい気持ちになります。皆さんには元気で優しい人になってもらいたいです。」とあいさつしました。児童らは「花束を作って花が好きになりました。お母さんにあげて喜んでくれたらうれしいです。」などと笑顔で話していました。



日高川町立川辺西小学校



印南町立稲原小学校

農業士会支部活動レポート

REPORT

会員の交流と研鑽を深める活動の実施

西牟婁地方農業士会連絡協議会事務局

1. 西牟婁地方農業士連絡協議会総会・研修会の開催

4月15日、当協議会（会長：谷本喜久）は、西牟婁振興局において、会員及び行政関係者等48名が出席のもと、総会および研修会を開催しました。

本年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し、役員や理事（支部長）を中心に、出席者を絞っての実施となりました。総会では、令和3年度事業報告、収支決算報告及び令和4年度事業計画（案）、収支予算（案）ともに原案のとおり承認されました。また、3月末に定年となった指導農業士2名から退任の挨拶がありました。研修会では、うめ研究所 菱池主任研究員、綱木研究員から「ウメの葉縁えそ病（茶がす症）について」および「開花前の高温がウメの花器および着果に及ぼす影響」をテーマに研究成果を紹介いただき、安定生産に関する活発な質疑応答がなされました。



会長挨拶



研修会（講師：うめ研究所）

2. 西牟婁地方農業士会連絡協議会経営研修会の開催

9月9日、県情報交流センタービッグ・ユーにおいて、経営研修会を開催し、会員および関係者あわせて30名が出席しました。この研修会は、農業士が一堂に会し、今後の農業経営の向上、地域農業の発展、地域の活性化につなげることを目的に開催しています。

はじめに、みなべ町で梅の加工販売や就農希望者の支援を行っている梅ボーイズ代表の山本将志郎氏から「梅ボーイズの取り組み」と題して講演いただきました。氏からは、梅産地の将来に危機感を持ち、梅干し製品を作って軽トラで全国販売を行い、失敗しながらも販路開拓を進め、年商6,000万円まで売り上げを伸ばした道のりや、仲間と耕作放棄地を借り受けて管理し、就農希望者に引き継ぐ取組について紹介いただきました。また、青年農業士の山本宗平氏から、昨年度にわかやま農業MBA塾を受講して作成した経営計画の内容について発

表いただきました。氏は、耕作放棄地を借り受け、従業員も雇用して梅や柑橘、イチゴ等を栽培しており、今後は紀中や紀北とあわせて3拠点での栽培を展開し、各産地の強みを生かして直売所や通信販売に取り組み「山本農園」のブランド化を図る計画について紹介いただきました。

参加者からは、「全国で販売活動する中で、白干しやシソ漬梅を食べた消費者の感想はどうだったか」、「多品目を栽培している中で、各販売先での品目の仕分けをどうしているのか」、「自分も生産拠点を増やしたいと思っているので、これからも情報交換してほしい」等の質問や意見が出され、活発な意見交換となりました。



山本将志郎氏講演



山本宗平氏講演

3. 西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会が梅の消費拡大活動を実施

7月29日、当協議会女性部会（部会長：田中直美）は、都市の子供たちに梅について知ってもらい、消費拡大に繋げようと大阪府藤井寺市にある学校法人四天王寺小学校2年生の児童39名と教員2名を対象に、梅の座学と梅ジュースづくり体験を行いました。座学では竹内明子副部会長が「梅の一年」について、パワーポイントで梅の花や成長する様子、栽培方法、梅干しが出来るまでの作業等を丁寧に説明した後、農業水産振興課の山下普及指導員から梅ポリフェノールの新型コロナウイルスへの阻害効果に関する研究報告について、イラスト入りの資料等を使って説明いただきました。次に、田中部会長が梅ジュースの作り方を実演し、児童は冷凍梅と氷砂糖を使ってジュースづくりを体験しました。

児童からは、「梅は、いつ収穫するのか」、「梅ジュースづくりは、思ったより簡単だった」、「梅のことがよく分かった」等の質問や感想がありました。さらに、家庭や学校の給食に使ってもらえるように、当部会で作成した梅料理レシピとJA紀南の梅干し（試食用）も配付しました。当部会では、今後も都市の子供たちに梅の座学や加工体験を通じて梅の魅力を伝えるとともに、保護者へもPRを行い、梅の消費拡大活動を積極的に行っていきたいと考えています。



梅の座学



梅ジュースづくり（実演）

農業士会支部活動レポート

REPORT

那賀地方農業士協議会の活動について

那賀地方農業士協議会事務局

1. 紀の川市農業士会役員総会・研修会の開催

当会では、令和4年3月29日に役員総会と研修会を開催しました。本来であれば、通常総会を開催するところですが、引き続きコロナ禍の最中でもあったことから、出席者を役員に限定することとなりました。

また、有意義な集まりの機会とするため、総会に先立って「農地中間管理事業と遊休農地リフォーム化支援事業について」と題し、農業水産振興課副主査から事業概要と管内における取組状況を紹介いただきました。

役員からは「農地の上部の付帯設備は対象となるのか」「条件の良いところを借りるにはどうしたらよいか」などの質問や、「借りようとしているが、持ち主が制度を活用してくれない」といった意見が出されました。



研修会（講師：崎氏）

2. 紀の川市農業士会役員会・研修会の開催

10月18日、役員会を開催しました。前回の役員会で「今年も役員会するときは研修会を一緒に出来たら」「頑張っている農業者の声を聴きたい」との意見もあったことから、役員会に合わせて研修会を開催しました。

研修会では、元指導農業士の小川教雄氏に講師を依頼し、「我が家の農業」と題して氏の経営（野菜・花き（葉ポタン）・果樹と法人経営によるあんぼ柿加工販売）を紹介いただきました。

役員からは「スタッフはどうやって確保してきたのか」、「加工に取り組んだきっかけは」などの質問が上げられるなど、管内で成功している事例に対する理解と関心を深めることができました。



研修会（講師：小川氏）

地域の逸品 !!

フレッシュハーブから香りを取り出した飲食用の「調香料」

紹介者

紀の川市4Hクラブ

米田基人



商品化された調香料

1. 商品の紹介

①特徴

フレッシュハーブから香りを取り出して使いやすくした液体ハーブを開発しました。これは香りに敏感な方は弱めに、濃い香りが好きな方は強めにと香りの強さを調整できる「調香料」です。

商品名は掛け合わせられる思いを込めて「xherb」（クロスハーブ）シリーズとしました。

料理にも飲み物にもお手軽にフレッシュハーブの特徴を着香できます。

②フレッシュハーブの悩ましさ

フレッシュハーブの香りは料理や飲み物に深みや広がりを与えてくれるのは皆さんご存知だと思います。ですが、料理の序盤から入れた方がいいもの、火を止めてから入れた方がいいものなどハーブの種類によって使うタイミングを知らないといけません。また、購入したハーブの保存方法や保存期間などを考えると、フレッシュハーブを気軽に使うには慣れが必要です。

③作ろうとしたキッカケそして商品化

紀の川市には青洲の里をはじめ、ハーブ生産や活用に興味を持った方が沢山います。ですが生産者側は種類が多いこともあって栽培、出荷の方法、活用方法の広め方などの課題があり、消費者側も各種ハーブの特徴を使いこなすのは困難で、使用量も使ってみないと自分好みの香る強さは分からない等の課題があります。これらの課題にはフレッシュハーブの香りはそのままに、いつでも使える、せっかくならケミカルフリーでビーガン対応のものをと、さらに将来的に需要が増えた際は簡単にハーブを生産してもらえるような仕組みづくりを考えてこの液体ハーブにたどり着きました。

そんなアイデアを持っていたなか、紀の川市で開催された6次産業化のアイデアコンテストに応募して色々な方々の協力もあって最優秀賞をいただきました。今年度は商品化すべく試行錯誤してこの2月に本販売を迎えます。いろんなフルーツが採れる温暖な紀の川市から、市の認定ブランドとして恥ずかしくないよう新しい香りの食文化を作っていきたいと考えています。

2. お問い合わせ先等

有限会社 OneHERB（ワンハーブ）

〒649-6565 紀の川市杉原 443-1

TEL: 070-5680-3619

E-mail: info@oneherb.co.jp



6次産業化のアイデアコンテストの
受賞式（米田：白衣姿）

地域の逸品 !!

生粋の農家を作る柑橘の加工品

湯浅町 地域農業士

太田 祥元

(株式会社 小南農園)

紹介者

湯浅町の田村地区は海に面し、日当たりが良く、温暖で、この土地に育ったみかんは味わいのすばらしさから「田村みかん」と名付けられています。

小南農園は田村地区で120年にわたりみかんを生産してきました。18年前から自家生産のみかんをジュースやゼリーに加工しています。これらの中からみかんのリキュール「小南日和」と「ブラッドオレンジジュース」を紹介します。



田村みかんのリキュール「小南日和」

1. 商品の紹介

「小南日和」

小南農園のみかん果汁と岡山・赤磐で三百年以上の歴史を持つ酒蔵「室町酒造」の純米酒をブレンドしたみかんのお酒です。田村みかんの甘み・香り・酸味を味わっていただけるよう、みかん果汁をたっぷり50%使い、幻の酒米「雄町米」を使った純米酒をブレンドしています。アルコール度数は8.0度以上9.0度未満で、みかんの美味しさと雄町米で造った純米酒のしっかりした旨味が特徴です。冷やしてストレートやロックでも飲みやすいリキュールに仕上がっています。

室町酒造さんとはシンガポールでみかんや加工品を販売している関係で知り合い、みかんと日本酒をコラボした製品を開発することになりました。

「ブラッドオレンジジュース」

今年商品化した新作です。ブラッドオレンジは約10年前に植えて徐々に収量を増やしてきました。

ブラッドオレンジにはビタミンCの他アントシアニンも含まれているのが特徴です。濃縮還元のように濃縮液を水で戻して100%にしていません。天然の果実から滴る果汁をそのまま瓶詰したストレートジュースなので生の果実と同じようなコクや甘み、酸味などブラッドオレンジ本来の風味が味わえます。



ブラッドオレンジジュース

2. お問い合わせ先等

株式会社 小南農園 代表 太田 直廣

湯浅町田39 電話：0737-62-3509

地域の逸品 !!

幻の果実「やまもも」を使った商品のPR

紹介者

上富田町 地域農業士

谷本 雅 司

□熊野かみとんだ山桃会（榎木美喜恵代表）は、平成27年に設立され、上富田町の木である「やまもも」の植樹推進や収穫体験、商品開発、地元小学校でのやまももお話授業の実施など、未来につながる町づくりを目指し、さまざまな取り組みを行っています。

また、山桃会の他、同町の有志で作る団体「iiiiiosa-kumano（いのさくまの）」（同代表）がJR朝来駅前に新たな交流拠点を整備し、やまももの活用を軸に、地域の活性化やにぎわいづくり、新商品の開発に取り組んでいます。

1. 商品の紹介

やまももは収穫期間が6月中旬から7月上旬のほんの数日間で、「赤い宝石」や「幻の果実」といわれています。果肉がやわらかくジューシーなやまももは、フルーティーな香りで酸味が少なく、甘味が強いのが特徴です。

熊野やまももシロップは、県のプレミアム和歌山に認定されており、水で割ってジュースとして味わえるほか、酢飯やドレッシングなど料理にも活用できます。ジャムは、手作業で種をとって製造しており、手間暇はかかりますが、その分しっかりと果肉が残るように仕上げられており、パンやチーズ、チョコレートにもよく合います。

みなさん、ぜひ一度ご賞味ください！

2. お問い合わせ先等

□熊野かみとんだ山桃会「Kumano Berry」

西牟婁郡上富田町朝来 1361-2

JR朝来駅内 □熊野かみとんだ観光案内所

(電話) 0739-33-9610

yamamomokai@gmail.com

<https://www.yamamomo.jp/>

<https://shopping.geocities.jp/kumanoberry/>



シロップとジャム、ドロップの詰め合わせセット



熊野やまももシロップ



農業士認定事業について

県農林水産業のリーダーを認定

和歌山県農林水産部経営支援課

2月14日、県農林水産業の中核的な担い手で、地域のリーダーとして活動している80名に対し、新たに農業士・林業士・漁業士として認定証を交付しました。今回の認定により、県内の農業士は790名となりました。また、農林漁業各分野で長年にわたり活躍された方々の功績に敬意を表して知事感謝状を贈呈しました。今回、感謝状を受け取られた皆様、農業士の認定を受けられた皆様は次のとおりです（敬称略）。

感謝状を受けられた皆様 18名

氏名	市町村	氏名	市町村
古田 好美	紀美野町	竹中 利幸	有田川町
谷 和久	紀の川市	坂井 計巳	有田川町
川原 章秀	紀の川市	中井 理自	有田川町
中 裕 泉	紀の川市	山崎 尊宏	有田川町
山名 知津	紀の川市	岡本 善樹	湯浅町
江 川 卓	岩出市	鈴木 章博	御坊市
新崎 裕功	岩出市	射場 慎一郎	上富田町
池田 泰子	橋本市	山本 由美	田辺市
酒井 正子	有田市	中道 昭人	田辺市

農業士認定者の皆様 60名

指導農業士認定者 14名

氏名	市町村	氏名	市町村
北村 勝己	和歌山市	古田 耕司	有田川町
岡室 孝明	海南市	川島 一夫	御坊市
小川 真司	紀の川市	菊地 晴美	御坊市
辻岡 孝明	紀の川市	清水 俊夫	日高川町
新崎 正智	岩出市	竹内 明子	田辺市
神下 勝好	岩出市	山崎 哲哉	田辺市
中垣 年生	有田川町	村上 達人	田辺市

地域農業士認定者 28名

氏名	市町村	氏名	市町村
長谷川 博	紀の川市	小田 辰則	みなべ町
児玉 悠詩	紀の川市	崎山 晃市	みなべ町
笹井 洋二	紀の川市	坂田 寛樹	日高川町
安部 豊	紀の川市	東 浩志	日高川町
出口 郁紘	岩出市	丸山 直美	日高川町
尾崎 正和	橋本市	山本 由加里	日高川町
岡野 成浩	かつらぎ町	那須 都男	田辺市
小柳 大和	かつらぎ町	行森 照明	田辺市
衣川 聖子	広川町	玉置 貴啓	田辺市
林 宏樹	有田川町	辻田 直樹	田辺市
大藪 和晃	御坊市	西浦 健太	白浜町
古田 廣志	御坊市	谷口 哲嗣	上富田町
中 民徳	印南町	松出 真紀	那智勝浦町
廣野 宜伸	印南町	中正司 ちか子	串本町

青年農業士認定者 18名

氏名	市町村	氏名	市町村
太田 勝也	紀の川市	野村 直佑	御坊市
妹背 武志	紀の川市	新田 真也	御坊市
上畑 雅敬	紀の川市	東山 裕哉	御坊市
竹綱 一樹	岩出市	新谷 力	印南町
辻本 大雄	橋本市	久保 隆治	みなべ町
上野山 純平	有田市	東 憲太郎	日高川町
松本 聖	有田市	宮本 誠士	田辺市
宮地 智也	有田川町	遠藤 賢嗣	白浜町
堀井 悟史	御坊市	瀧谷 弦	新宮市

県からのお知らせ

温州みかんマルチ栽培の経済性評価

和歌山県農林水産部果樹園芸課 主査 田 嶋 皓

1. はじめに

温州みかんの評価、とりわけ販売価格は、光センサー選果機が普及した現在においては、主に糖度と酸、そしてそのバランスにより決定されます。その点において本県は、水はけがよく日当たりのよい傾斜地での栽培が盛んなため、高品質栽培に有利な産地と考えられますが、一方で水田転換園や水はけが悪い緩傾斜園地でも温州みかんが栽培されており、そのような園地における品質向上には、マルチ栽培が有効な手段の一つです。しかし、マルチ栽培はシートの敷設が重労働であることに加え、費用対効果の検証が十分できる知見が少ない点も普及を阻む要因と考えられます。そこで、令和3年度において「日本一の果樹産地づくり事業補助金」でマルチ敷設を行った生産者より、選果データおよび販売情報を提供いただき、マルチ栽培の経済性を検証しました。なお、本調査におきましてはJAに加え、県農（JAグループ和歌山農業振興センター）、農業共済組合、各市町にもマルチ敷設のご協力をいただきました。

2. 取組内容

JAながみね管内2か所、JA紀北かわかみ管内2か所、JAありだ管内16か所の計20か所の温州みかん園地において、夏期にマルチを敷設し、実証園としました。マルチは被覆、露出が容易な巻上式としました。各実証園の選果データおよび売上を前年度（マルチなし）と比較することで、マルチ栽培による品質や評価および売上の向上度合を調査し、経済性の検証を行いました。



マルチ敷設の様子

3. 令和3年産の温州みかんの生育と気象条件

令和3年産は本県においては裏年にあたり、5月の着花量は県内全体でやや少ない傾向で、生産量予測は前年比90%の1万トンでした。2～3月の気温は平年より高く推移し、発芽・開花ともに前倒しとなりました。8月は平年の3倍の降水量があり、極早生品種は低糖の傾向となりましたが、10～11月は降水量が少なかったため、早生品種以降は品質が持ち直す形となりました。

4. 結果

(1) マルチ敷設のコスト

必要な物品としては、マルチシートに加え、鉄管パイプ、パッカー、固定ピン、巻き上げ器具などがあげら

れ、平均コストは約 19 万円 /10a (n=20) となりました。

(2) 果実品質の評価

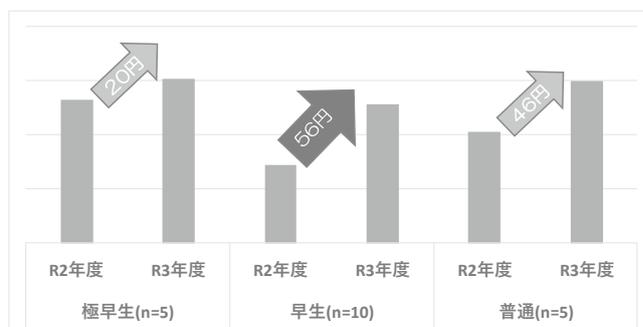
評価を行った 20 園地のうち、前年度と比較し糖度が増加したのは 17 園地でした。マルチ園地の平均糖度は 12.1 度となり、昨年度のマルチなし条件と比較すると約 1 度の増加が確認されました。種類別に見ると、極早生で 0.5 度、早生で 1.3 度、普通で 0.8 度それぞれ増加し、早生でもっとも増加率が高い結果となりました。一方、クエン酸含有率はマルチ園地平均で 0.83% となり、前年度と比較してほぼ同等で、過度な酸高が懸念される園地はありませんでした。



糖度の推移

(3) 単価の評価

評価を行った 20 園地のうち、前年産との価格補正後の手取り単価 (円 /kg) が向上したのは 18 園地でした。平均手取り単価は 240 円となり、昨年度のマルチなし条件と比較すると平均で 45 円の向上が確認されました。種類別に見ると、極早生 (n=5) で 20 円、早生 (n=10) で 56 円、普通 (n=5) で 46 円それぞれ向上し、早生で単価向上の効果がもっとも高い結果となりました。



手取り単価 (円 /kg) の推移

5. まとめ

以上の結果から、マルチ敷設によりおおむねすべての園地で品質および単価の向上が確認されました。10a 当たり 2t 出荷し、マルチ効果が十分発揮されるとすると、平均で 90,000 円 /10a の売上向上効果が見込め、2~3 年で資材費の元を取ることが出来ます。令和 3 年は秋期の降水量が少なかったため、早生以降の品種ではマルチによる品質の向上効果が限定的な園地も認められましたが、品質、着色の向上により「味一」ブランドで販売することができた園地もありました。一方で、単価の向上に繋がらなかった園地もあったことから、単価の底上げを狙うためか、もしくは「味一」のような個性化商品を作り高単価販売を目指すためか、目的を明確化し、自身の園地においてどの程度単価の向上が見込まれるのか、想定してから導入することも重要と考えられます。また、巻上式のマルチ管理は、べた敷きと比較して明らかに労力軽減できることから、平坦地や緩傾斜園地の苗木植栽に際しては、直線的に植栽することを推奨します。なお、令和 3 年の秋期のように長期間降雨がない場合は、過乾燥による樹勢低下や小玉果が懸念されるため、灌水設備の設置や適期の秋肥施用、収穫後の葉面散布により樹勢回復を図ることが重要です。

県では、引き続きマルチ資材への補助により、温州みかんの高品質生産を支援するとともに、生産者所得の向上に寄与する取組を継続してまいりたいと考えています。

令和5年3月
和歌山県

農業と福祉の連携を促進する和歌山県公式農福連携応援サイト 「ノウフクわかやま」を開設しました！



- 農業と福祉が連携し、障害者の農業分野での活躍を通じて、障害者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する農福連携の取り組みを発信するウェブサイト『ノウフクわかやま』を開設しました
- 「ノウフクわかやま」では、農福連携に取り組む県内の障害福祉サービス事業所や好事例を掲載しており、この取り組みを多くの方に幅広く知っていただくとともに農福連携に興味がある障害福祉サービス事業所等の方にも参考となる内容となっています
- ウェブサイトを通じて、農福連携のメリット等を発信し、農業と福祉の連携促進に取り組めます



検索方法

ノウフクわかやま

🔍 検索

<URL>

<https://noufuku-wakayama.jp/>

<ウェブサイトの特徴>

- 農福連携に取り組む県内の障害福祉サービス事業所や取組事例を紹介
- 農福連携に取り組みたい障害福祉サービス事業所は、ウェブサイトを通じて情報発信や相談が可能
- 農福連携に取り組みたい農業者は、依頼したい農作業についてマッチングの依頼が可能

<マッチングに関するお問い合わせ>
一般社団法人和歌山県セルフセンター
☎ 073-499-6142

<ウェブサイトに関するお問い合わせ>
和歌山県福祉保健部 障害福祉課
☎ 073-441-2537

(参考) 農業士について

昭和51年から県知事が認定している制度。

地域農業の振興と農村の活性化にリーダー的役割を果たしている農業者に対し、付与される称号。「指導農業士(65歳まで)」「地域農業士(65歳まで)」「青年農業士(40歳まで)」の3つの区分がある。

令和5年3月現在の認定者数は以下の通り。

指導農業士	136名(うち女性	24名)
地域農業士	534名(うち女性	52名)
青年農業士	120名	
合計	790名(うち女性	76名)



表紙の人

田辺市 指導農業士

谷本 喜久さん

谷本さんは梅200a、柑橘類50aを栽培し、漬け梅出荷を主体とした経営を行っています。

また、紀州田辺新規就農者育成協議会の研修受入れ農家として、後継者育成にも積極的に取り組んでいます。

和歌山の農業士 第20号

発行日：令和5年3月

編集：和歌山県

和歌山県農業士会連絡協議会

印刷：株式会社 協和



和歌山の 農業士

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

